



電気ストーブによる 火災にご注意！！

～臨港消防署から緊急のお知らせです～

臨港消防署管内で、電気ストーブによる火災が頻発しています。皆様のご家庭は大丈夫ですか？実際に起きた火災事例と、火災を防ぐポイントをご紹介します。

11月19日 18時10分頃 -----

勝どき一丁目のマンションで火災発生！Aさんは、マットレスの足元で**電気ストーブ**を使用したまま寝入ってしまいました。ストーブとベッドが接近していたため「**放射熱**」を受けたマットレスが燃えだし、火災となりました。目覚めたAさんは、枕で叩いて消そうとしましたが消せず、駆け付けた防災センター勤務員が消火しました。

12月21日 6時30分頃 -----

勝どき四丁目のマンションで火災発生！Bさんも、**電気ストーブ**をつけたまま就寝してしまい、同じく「**放射熱**」でマットレスや掛け布団が燃えだし火災となりました。Bさんは足元が熱いので目覚めると、足元の布団から炎が上がっていたので、水道で敷布団を濡らし、燃えている部分に掛け消火しましたが、**両手、右足に火傷を負っています**。



火災を防ぐポイント(暖房器具編)



- 1 衣類や布団などの可燃物の近くで使用しない。**
 - ・ストーブの上で干していた洗濯ものが落下し、火災になったケースもありますので要注意。
- 2 寝る時や外出する時は必ず火を消す。**
 - ・寝室などでストーブを使用する場合、ベッドなどに接近していると、「放射熱」や寝返りで布団がかぶさり出火したケースがあります。
寝る時や外出する時は暖房器具のスイッチを切る習慣を身につけましょう。
 - ・ストーブ等、長期間使用しないときには、誤ってスイッチが入らないよう、コンセントや点火用の電池を抜きましょう。
- 3 エアゾール缶などをストーブ・ファンヒーターの上やそばには置かない。**
 - ・エアゾール缶などをストーブやファンヒーターなどの上や近くに置いていると、放射熱で過熱され、缶が破裂、漏れたガスに引火し、火災となるおそれがあるので絶対にやめましょう。
- 4 石油ストーブ等のカートリッジタンクの口金は確実に締まったことを確認してからセットする。**
 - ・給油時は必ず消火し、火が消えたことを確かめてから給油しましょう。



お問い合わせ先

臨港消防署(予防課防火管理係) TEL 03-3534-0119